

今回は、12月13日に行われた口腔顔面痛診断実習セミナーについて、東京歯科大学歯科麻酔学講座の高橋香央里先生に報告していただきます。

口腔顔面痛診断実習セミナー参加報告

東京歯科大学 歯科麻酔学講座 高橋 香央里

令和2年12月13日(日)、本年度の口腔顔面痛診断実習セミナーはCOVID-19の感染予防を考慮してオンラインで開催された。当初は9月27日の開催が予定されていたが、COVID-19の感染拡大を考慮して延期となり、当学会初めてのオンラインでの診断実習セミナー開催となった。セミナー開催にあたって、12月1日(火)から11日(金)まで、オンデマンドによる事前講義受講と小テスト修了が義務付けられた。



診断実習セミナー開催画面

事前講義では、はじめに本学会理事長の松香芳三先生から参加者に向けての挨拶があり、その後、以下の講義が行われた。

○臨床診断推論による症例鑑別診断の進め方

(慶應義塾大学歯科口腔外科学教室 和嶋浩一講師)

○臨床診断推論のための症例①提示

(川崎市立井田病院歯科口腔外科 村岡渡講師)

○筋・筋膜性疼痛診査法

(九州大学大学院歯学研究院口腔状態制御学講座 築山能大講師)

○臨床診断推論のための症例②提示

(愛知医科大学痛みセンター 西須大徳講師)

○すぐできる12脳神経の診査法の実際

(日本大学松戸歯学部有床義歯補綴学講座・同附属病院顎脳機能センター 大久保昌和講師)

○神経障害性疼痛診査法解説 (日本大学歯学部口腔診断学講座 野間昇講師)



日本口腔顔面痛学会理事長 松香芳三先生



診断実習セミナー 担当講師

受講後には理解レベルを確認するための小テストを受けた。

他にも **Zoom 接続テストを含む事前説明会**が開かれ、各自でオンラインでの受講に向けて環境を整えることができた。

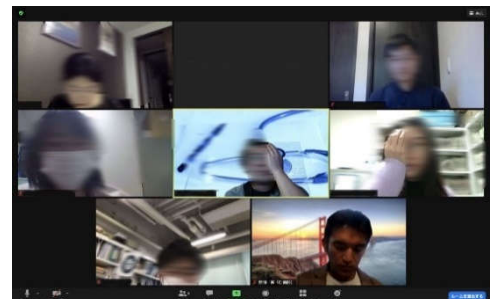
実習セミナー当日は 30 名が参加した。

A～E 班の各班 6 名に振り分けられグループごとに併設されたインターネット上のルームへの入室確認の後、企画運営委員長の村岡渡講師から本セミナーのプログラムの解説と講師紹介があり、臨床診断推論のための症例①提示が行われた。

築山能大講師から**筋・筋膜性疼痛診査法の説明及びデモンストレーション**があった。筋触診のためには、適切な圧で診察を行う必要がありその指標にパルピーター (SUNSTAR 製)、圧力計やはかりが一般的に用いられる。このような機材を実習会場で実際に使用することはできなかったが、代替えとして 5mL シリンジを使用した方法が紹介された。シリンジに 5mL まで空気を吸引させシリンジ先端を閉塞し 3mL の目盛まで圧迫すると、1.0kg に該当する圧力になり簡易圧力計となるというものであった。適切な触診圧を学んだのちに、各自触診法を行いオンラインでグループ講師からの指導を受けた。

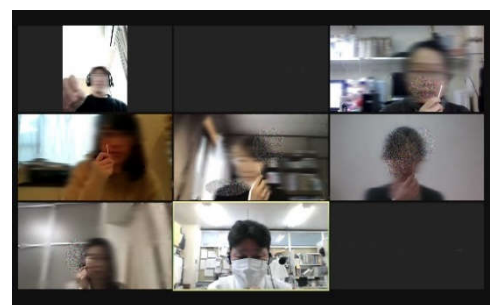
次に、各グループに分かれて**冒頭で提示された症例について症例検討**を行った。仮説演繹法を用いて診断過程記入表に包括的病歴採取、鑑別診断の列挙、鑑別診断確認作業、鑑別診断の見直し作業、最終診断の順に記入し診断を行った。鑑別診断確認作業を行う際は担当講師に検査結果を尋ねるとその結果が提示され、整合性の確認を行えた。医療面接・構造化問診で患者から病歴を聴取ができなければ鑑別そして診断にたどり着けないこともあることから、患者の訴える病状を含めた所見を診断に繋げていく包括的病歴採取の重要性を改めて学ぶことができた。その後、グループごとに症例発表を行った。各グループで作成した診断過程記入表を共有し、発表者が発表していくというものであった。自身が所属したグループのみならず、いくつかの臨床診断推論を聞くことができ、診断に至るまでの考え方を整理することができた。グループ発表後は村岡渡講師から、当症例における臨床診断推論の解説が行われた。

午前の講義が終了し、各自休憩の後に西須大徳講師から**臨床診断推論のための症例②**が提示された。午前と同様に症例を提示のみにとどめ、すぐできる**12 脳神経の診査法**の実際について大久保昌和講師から解説及びデモンストレーションが行われた。デモンストレーションにならって受講者は脳神経の診察法を確認した。相互実習はグループごとに行い、班員でペアとなり相互実習を行った。咽頭後壁の観察など診察が困難なものもいくつかあったが、診療の流れを学ぶことができた。



12 脳神経診査実習風景

次に、**神経障害性疼痛診査法**について野間昇講師から解説があった。チェアサイド検査にはスクリーニング検査、診断のための検査と研究のための検査があり、診断のための検査には定性感覚検査及び定量感覚検査がある。それぞれの検査方法についてデモンストレーションが行われた。定性感覚検査の一つに温度刺激による温冷覚検査がある。一般的にはスパチュラを使用するが、今回の実習セミナーではスプーンを代用した。家庭にあるもので滞りなく実習を行うことができた。



定性感覚検査実習風景

最後に、**臨床診断推論のための症例②**について、グループごとに分かれて症例①と同様に診断過程記入表に記載をしながら症例検討を行った。2 回目の症例検討ということで滞りなく診断まで話し合うことができた。グループ発表の前に治療方針についても班員とディスカッションすることができた。その他、今回の症例を踏まえて実際の臨床ではどのように対応しているか講師を交えて学ぶことができた。

実習セミナーの最後は、**質疑応答と総合ディスカッション**、**ポストテスト**を行い、本セミナー受講後の参加者の理解度の確認が行われた。グループディスカッションで使用したスライドは各班で共有した。

今回の実習セミナーは私にとって2回目の参加であった。以前は理解できていなかった分野も今回の参加により知識の確認ができ、さらに他大学の先生方と日々の臨床で難治性の症例も検討できた。オンライン開催ということもあり実習当日は相互実習が困難なことににより制限されてしまう場面もあったが、オンデマンドによる事前講義受講と小テストの実施により実習当日も講義受講や症例検討は充実したものであった。COVID-19により今後オンライン実習の受講機会が増えると思うが、今回の実習セミナーを通して今後も参加したいと感じた。

【高橋香央里（たかはしかおり）先生のプロフィール】

【略歴】

2013年 東京歯科大学卒業

2018年 東京歯科大学大学院歯学研究科修了 歯学博士

東京大学医学部附属病院麻酔科・痛みセンター 特任臨床医

2018年～東京都医学総合研究所 依存性物質プロジェクト 協力研究員

2019年～東京歯科大学歯科麻酔学講座 助教

【所属学会】

日本歯科麻酔学会（認定医・専門医）

日本口腔顔面痛学会（認定医・暫定専門医）

日本障害者歯科学会

追補：初めてのWEB版開催を終えて

診断実習セミナー担当委員長 村岡 渡

コロナ禍での「診断実習セミナー」の開催は困難であると考え、当初予定していた9月の開催は延期とした。しかし、WEBでの講演やセミナーが日常になった状況を踏まえ、「診断実習セミナー」もWEBで開催可能なのではないかと検討を開始した。ファシリテーターの経験のある数名の先生と有志の先生方にお願ひし、9月に入ってZOOM上にて臨床診断実習のトライアルを行った。参加者は、ZOOM上のブレイクアウトルームで6名のグループに分かれ、ファシリテーターの指導を受けながら、共有画面で表示されるパワーポイント画面の「臨床診断推論記入表」を修正しながらディスカッションを重ねていく。ファシリテーターは、質問された画像検査の結果などを画面に表示する。対面で行っていた実習よりもむしろ見やすく、効率的なようにも思えた。参加いただいた先生方の評判も上々であった。あとは筋触診や神経診察などの相互自習をどうするかが課題となった。

その後、さまざまな検討を行い、12月には「診断実習セミナーWEB」の開催に至ることができた。相互実習は、事前に測定機器に用いることができる器材を受講者の皆様にご準備いただき、可能な限り画面を通して相互実習を行なうことで対応した。

今回の「診断実習セミナーWEB」では、いくつもの課題が見つかったが、メリットも多いこともわかった。今後もさらに改善を重ねることで、「診断実習」がWEB上で行えると前向きに捉えている。受講いただいた先生方からの貴重なアンケート結果を踏まえて、来年度もさらに充実した内容のWEB開催を行えるように進めていきたいと考えている。

最後に、今回の準備に大変なご尽力をいただいた、講師およびファシリテーターの先生方、トライアルに参加頂

いた有志の先生方、また、事前学習用オンデマンドサイト等を構築いただいた IASP 教育システム開発プロジェクトチーム*（プロジェクトリーダー：佐々木啓一先生）の小長谷光先生、大野由夏先生およびチームの先生方、また初めてとなるこの WEB セミナーに実際にご参加いただき、オンデマンド事前学習や当日の実習に真摯に取り組んでくださった受講者の皆様にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

（* IASP 教育システム開発プロジェクトとは、国際疼痛学会（IASP）と日本疼痛学会（JASP）が公募し、当学会で採択され活動しているプロジェクトで、現在さまざまな当学会のセミナーのサポートを行って頂いております。詳細は以下の当学会ホームページのリンクをご参照ください。）

https://jorofacialpain.sakura.ne.jp/?page_id=4461

IASP教育システム開発プロジェクト

[詳細はこちら](#)

学会ホームページより

日本口腔顔面痛学会 News Letter へのお問い合わせは

「日本口腔顔面痛学会事務局」まで

〒135-0033 東京都江東区深川 2-4-11 一ツ橋印刷株式会社学会事務センター内

TEL: 03-5620-1953, FAX: 03-5620-1960 E-mail: jsop-service@onebridge.co.jp